

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・活用能力を高める授業改善を行えた。
- ・タブレット等のICTを用いた授業展開を行うことで、授業に対する生徒の主体性が高まった。

(2) 課題

- ・学習したことを長期記憶化する点に課題があるため、生徒が主体的に学習に取り組める授業展開を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	区の平均を上回る分野もあったが、全体的に区の平均を少し下回った。		
第2学年	地理・歴史ともに、区平均を少し下回っている。	区の平均と同等である。 (第1学年時)	
第3学年	区の平均を上回る分野もあったが、全体的に区の平均を下回った。	区の平均と同等になった。歴史の正答率が落ちた。(第2学年時)	区の平均より少し低い結果だった。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小5年次の内容と歴史分野の古代の単元の正答率が低い。小6年次の内容も、国際的な視点が弱く正答率が低い。歴史分野の戦国時代から明治時代にかけての分野は正答率が高い。	出題意図を理解できておらず、表現力も不足している。特に資料からの読み取り力が課題である。	無回答の割合も低く、取り組む姿勢は見られる。ただし、問題処理能力が低いため、後半の問題を解く時間がなく、記述問題の後半の無回答率が高くなっている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理分野の単元の正答率が低い。歴史分野では、文化史の正答率が低い。縄文時代～平安時代までの内容は正答率が高い。	複数の資料から読み取れることを踏まえた考察力が課題である。表現力も不足しており、ポイントをおさえた回答ができていないことが見受けられる。	記述式の問題では無回答の割合が高い。選択式では無回答の割合は低く、取り組む姿勢は見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1年次に学習した内容の得点率が低いため、今後の学習の中で既習内容を取り入れた授業を展開し、知識・技能を高める必要がある。	課題解決学習を実施したが、生徒が考えるための時間が不足しており、思考・判断・表現の向上を図ることが難しかった。	生徒の授業に対する主体性向上を図ることが難しかった。生徒の生活で身近に感じられる事例を基に授業展開する必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の導入で前回の復習を入れ、知識の確認を行いさらなる定着を図る。技能については、グラフや資料から分かることを、ICTを使い個人で考えさせ、クラス全体で共有する。	思考・判断については、資料から分かることを、ICTを使い個人での考える時間を設ける。表現については、単語によるものが多かったもので、5W1Hを意識させていく必要がある。	授業内での発言や取組は見られるが、家庭学習につながらなかったため、生徒の身近でイメージしやすい授業展開を行うことで主体的な学習に結び付ける必要がある。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前回学習した内容の振り返りを授業の最初に行い、単元の終わりに小テストを行う頻度を増やし、授業内で既習内容を活用させて知識・技能の定着を目指す。	各テーマに課題を設け、生徒が知識を活用して課題解決を行う授業展開を心掛ける。そして出来事が起こる原因やその結果が社会にもたらす影響を考える時間を作る。ICT機器も用いるなどして、考えさせたことを文章で書かせ生徒間で共有し、思考・判断・表現の力を育む。	政治や経済の仕組みなどが含まれるテーマでは、生徒に身近な例を挙げ、生徒自身が具体性をもって考えられるようにしていく。 授業形式に調べ学習を取り入れて、生徒のペースで主体的に学習に取り組む環境を作る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業内での復習や小テストを定期的実施し、既習内容を活用して授業展開を行い、授業の中で知識・技能の定着を図る。	課題解決的な授業展開を行い、資料を基に生徒一人一人が考えて文章で解答する授業を行う。その際、ICT機器で生徒間で考えを共有し、思考・判断・表現力を高める。	生徒の身近な事例をテーマに挙げ、生徒が具体性をもって考える授業展開を行い、主体的に学習に取り組む態度を養う。